

次回の仏壮は、

「報恩講」です。

十一月二十八日（土）

※十二月十九日（土）の法輪寺報恩講にもお参り下さい。

浄土真宗のみ教えを体系的に学ぶ学校に中央仏教学院（各種学校）があります。その通信教育に「入門課程（1年）」「学習過程（3年）」「専修課程（3年）」がありますが、今般、梅鶯仏教壮年会副会長の森勝昭氏が「学習過程」を卒業されました。

「学習過程」は、浄土真宗や仏教に関する科目を、各学年次5科目計15科目を履修する課程です。

さらに森氏は、僧侶資格の取得を目的とした「専修課程」に進級なされました。

「学習過程」卒業のお祝い申し上げますとともに、今後益々仏壮の良きリーダーとなって頂きますことをご期待申し上げます。

## 仏教用語の解説⑪

《選 択》

一般用語：せんたく  
仏教用語：せんじやく

「選択」は、一般的には「せんたく」と読み、「いくつかあるものの中から適当なものを選ぶ」という意味です。

仏教ではこれを「せんじやく」と読み、言葉の意味としては同じですが、特に南無阿弥陀仏のみ教えこそが最もすぐれ、最も修めやすいみ教えだとして、お釈迦様が明示しにされた数多くの教えの中から念仏一行を「選択」（選ぶ）し、そのほかの一切の余行を「選捨」（選ぶ捨てる）することをいいます。

その言葉が端的に使われているのが、法然（源空）上人の「選択本願念仏集（せんじやくほんがんねんぶつしゅう）」です。

この著書は念仏往生の意義を示して、称名念仏こそが正しく選ぶ取られた行業であることを述べ、雑行雑修（仏と成ることのできない行）の自力行を捨てて、仏様の願いにかなった往生の正しい道である称名念仏をすすめる



られています。

とありますが、当時の仏教は権力に結びついた特定の人達のためだけにある自力行が主でありました。

そのため、この書が表に出れば大変な混乱や誤解が生じると考えられ、法然上人はお弟子さん達にさえも容易にこの書を読ませなかつたのです。

けれども親鸞聖人には、法然上人自らの影像を図画することを認めるとともに、この「選択本願念仏集」を書写することを許されました。

このことは、法然上人と親鸞聖人が如何に信頼関係で結ばれておられたかということがうかがい知れます。

この場面は、新聞に連載された五木寛之さんの小説「親鸞」の中でも、大変ドラマチックに描かれていました。

法然上人も親鸞聖人も、私たち凡夫がわけへだてなく仏と成ることのできる真実の道を、権力やあらゆるしがらみを恐れることなく命がけで選択なされました。

私たちの人生でもしばしば選択を迫られることがあります。正しい事には命がけで・・・とは、なかなかいかないものですね。

